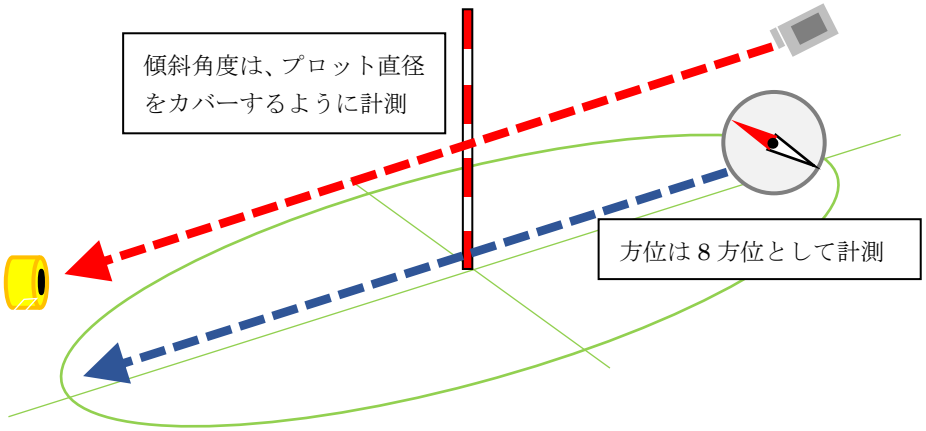
5-3-4 経緯度の記録

・プロット中心にて、計測した経緯度を野帳項目②に記入する。GPS ログデータ取得を終了し、保存しておく。(GPS が不安定で、対象小班外にデータが落ちている場合は、プロット中心点で 10～20 分程度、GPS 測位の平均化を行った座標値を記入する。)

5-3-5 傾斜角度、斜面方位の測定

・野帳項目②に記入する。
・プロットの傾斜角度は、プロット内の斜面上方から中心ポールをとおり下方に向かい、プロット直径をカバーするように計測する。プロット全体の平均傾斜角となるように、直径長で計測する。最下端に補助員に立ってもらい、最上部付近から計測する。(あらかじめトランスポンダを設置する高さとバーテックスの高さ設定を合わせておく。)
・斜面方位は、オリエンテーリングコンパスを手にもち、尾根側を背にして立ち、斜面の方向を「N、NE、E、SE、S、SW、W、NW」の 8 方位として計測する。



傾斜角度の計測範囲と斜面方位の方向

5-3-6 伐根の腐朽度に関する調査

・調査プロットの伐根のうち（プロット内にない場合は周辺の伐根)、最も新しい伐根と思われるものについて、伐根の腐朽度に関する調査を実施する（野帳項目⑩-1)。また、それを含む新しいものから 3 伐根の年輪数を計測する（野帳項目⑩-2)。
・年輪数は可能な限り読み取り、何年以上あるということがわかるように、〇年＋と“＋”をつけるようにすること。苔が生えている場合は苔をそぎ落とすか、鋸で切断のうえ、年輪を読むようにする。
・写真は調査した伐根全てを撮影する。…5-2-2 参照

5-3-7 林分の状況に関する調査

・林分の状況に関する調査を実施し、野帳項目⑥、⑧-1、⑧-2、⑪、⑫に記入する。

・【階層構造】草本層植被率の目安（野帳項目⑧-1）

草本層植被率の目安

被度１０％未満	被度１０～３０％未満
被度３０～５０％未満	被度５０～８０％未満
被度８０～１００％	

・【階層構造】高木層植被率の目安（野帳項目⑧-1）

高木層植被率の目安

スギ　９０～９５％（うっぺい）	スギ　７５％～８５％（うっぺい）
スギ　７０～７５％（ややうっぺい）	スギ　６０％（やや疎）
スギ　４０％（疎）	ヒノキ　９５％～（うっぺい）

ヒノキ　８５～９５％（うっぺい）	ヒノキ　７０～８０％（ややうっぺい）
カラマツ　９０％～（うっぺい）	カラマツ（冬）　８０～９０％（うっぺい）
クロマツ　６０～６５％（やや疎）	アカマツ　６０～６５％（やや疎） 亜高木層あり　４０％

・被度は各階層で見た場合の割合を記入する（記入は 5%単位）。
・冬は落葉していることを念頭に置いて記入する。